

利用者の疾患の違いが介護支援専門員の アドバンス・ケア・プランニングの実践に及ぼす影響

○ 社会福祉法人 優輝福祉会 牧原 拓矢 (010125)

越智 あゆみ (県立広島大学・005018)、細羽 竜也 (県立広島大学・005033)

キーワード：介護支援専門員、アドバンス・ケア・プランニング、利用者の疾患

1. 研究目的

人生の最終段階では、意思決定を支えるアドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning; 以下、ACP) の実践が求められている。しかし、牧原ら (2024) の報告によると、介護支援専門員の ACP の取り組みについて、以下の2点が示唆されている。(1) 介護支援専門員と医療従事者の連携が十分でないことによって、介護支援専門員が ACP に適切に取り組めていないことが課題の1つとなっている。加えて (2) 疾患別に、ACP の取り組み内容の違いが想定され、医療従事者との連携を踏まえた ACP 実践が必要とされている。ただし、ACP 実践に影響を与える諸要因の関連性について検討が不十分であった。

本研究の目的は、利用者の疾患の違いが介護支援専門員のアドバンス・ケア・プランニングの実践に及ぼす影響について、特に医療従事者との連携意識に焦点をあてながら検討を行うこととした。

2. 研究の視点および方法

本研究は、第72回日本社会福祉学会秋季大会で発表したデータを、研究目的に即して2次分析したものである。2023年6月にX県にある400箇所の居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員を対象に送付した2000票のうち、562票の回答が得られた (回収率28.1%)。主な質問項目は、(1) 山本・吉岡 (2021) を参考に、心疾患と認知症の利用者それぞれに対する介護支援専門員の ACP の取り組みを尋ねる内容と、(2) 藤田ら (2015) を参考に、介護支援専門員の医療従事者への連携意識を尋ねる内容であった。IBM-SPSS Statistics Version 25 を用いて分析を行った。

3. 倫理的配慮

本研究の元々の計画は、県立広島大学研究倫理委員会 (三原キャンパス) の承認 (22MH064号) を得て実施している。2次分析を行うにあたり、日本社会福祉学会の研究倫理規定および研究ガイドラインに即して行った。本発表に関連して開示すべき COI はない。

4. 研究結果

(1) 心疾患・認知症利用者への ACP 取り組み尺度の探索的因子分析

心疾患および認知症利用者への ACP 取り組み尺度の探索的因子分析を行った。因子抽出

法として最尤法を用い、因子間の相関を考慮したプロマックス回転を適用した。

心疾患利用者では、「疾患に関する情報共有」「疾患に対する心情の支え」「価値観と心情の把握」「希望や意向の確認」の4因子を、認知症利用者では、「希望や意向の確認」「疾患に関する家族との情報共有」「利用者の尊重とストレングス」「医師との共有」の4因子を抽出した。

(2) ACP 取り組み尺度と医療従事者への連携行動尺度の関連性の検討

心疾患利用者と認知症利用者の ACP 取り組み尺度と医療従事者への連携行動尺度およびその他の変数との関連を検討するため、医療従事者への連携行動尺度について、探索的因子分析を行った。その後、抽出した因子を説明変数、ACP 取り組み尺度の各因子を目的変数とした階層的重回帰分析を行った。連携行動尺度の探索的因子分析の結果、「コミュニケーションと連携全般」および「今後の変化の予測」の2因子を抽出した。階層的重回帰分析の結果、この「コミュニケーションと連携全般」および「今後の変化の予測」が、「心疾患利用者への ACP 取り組み尺度」とその下位因子における有意な正の影響要因となった。同様に、「認知症利用者への ACP 取り組み尺度」と下位因子についても、「コミュニケーションと連携全般」および「今後の変化の予測」が有意な正の影響要因となった。

5. 考察

因子分析の結果、利用者の疾患の違いが介護支援専門員の ACP 実践に影響を及ぼすことが明らかとなった。心疾患利用者では、第1因子に「疾患に関する情報共有」、第2因子に「疾患に対する心情の支え」となった。このことから、進行に伴う疾患に関する情報共有や、心理的に支えようとする姿勢に特徴がみられた。認知症利用者では、第1因子に「希望や意向の確認」、第2因子に「疾患に関する家族との情報共有」となった。早期に希望の確認や家族を含めた情報の共有が主な特徴となっており、疾患特性に応じた ACP 実践が必要であると考えられた。一方、医療従事者との適切な連携は、疾患の違いに関わらず、介護支援専門員が ACP に取り組む際の重要な要件となることが明らかになった。特に、将来の変化の予測を踏まえた連携が重要な要素であることが示唆された。

(文献)

牧原拓矢・越智あゆみ・細羽竜也 (2024) 「介護支援専門員における医療従事者への連携意識が ACP の実践に及ぼす影響」『日本社会福祉学会第 72 回秋季大会』(日本福祉大学) (https://www.jssw.jp/conf/72/program_list_ob.html, 2025. 5. 1).

山本美保・吉岡さおり (2021) 「心不全患者のアドバンス・ケア・プランニングにおける看護師の取り組み測定尺度の開発と関連要因の検討」『日本看護科学会誌』41, 723-732.

藤田淳子・福井小紀子・池崎澄江 (2015) 「在宅ケアにおける医療・介護職の多職種連携行動尺度の開発」『厚生学』62(6), 1-9.